

「自分のあり方」を 見つめる キャリア選択

キャリアの選び方や働き方が多様化する昨今、高校生の進路に対する意識は変化しつつあります。インターネット環境が整った時代に生まれ、SNSを使いこなす今の高校生は、多くの情報にアクセスできる一方、膨大な情報の渦の中、自分の将来を思い描くことが難しくなっている側面もあるかもしれません。将来の夢や目標を見つけなくては、というプレッシャーで動けなくなってしまうたり、焦って視野が狭くなってしまったり…。

日々、そんな生徒たちと相對する先生方は、どのように進路指導・キャリア教育を行えばいいのか試行錯誤されていることと思います。一昔前と比べて、職業観の変化や進路の多様化に対応することが難しいという声も多く聞かれます。

将来どんな仕事をしたい？ 何をして生きていきたい？ そういった未来の姿を考えるためには、まず「今」の自分を見つめる時間が必要なのではないでしょうか。今の自分が何を大切に感じ、どういう自分でありたいのか。本特集では、高校生が「自分のあり方」を見つめ、自ら進む道を選び取っていくためのサポート方法を考えます。

赤羽佐希子(本誌 デスク)

社会は変わった。 生徒も変わった。 —— 本当に？

「タイプ」重視

動画配信サービスなど、低価格で大量に映像コンテンツを見られる環境が整うに当たって、短時間で満足を得られるかどうか（タイムパフォーマンス）が重視されるようになった。動画の倍速視聴が話題に。

「押し」でつながる

「押し」は自分が好きなものや人、キャラクターのこと。「この人を応援している」ことが自分らしさを表現する一つの要素になっており、同じ押しを応援している人とネット上でつながることも。2021年には新語・流行語大賞に「押し活」がノミネートされる。

カリスマ不在

かつては「憧れのあの人のようになりたい」と憧れの偶像に近づくのがモチベーションの一つだったが、絶対的なカリスマやロールモデルがいないと言われる昨今。「今の自分が少しバージョンアップできるくらいの未来」を思い描く傾向が指摘されている。

知名度より 自分の「価値観」

何かを買うとき、知名度やブランドの有無よりも、コンセプトや開発ストーリーに自分が共感できるか、自分の価値観と合っているかを重視しがち。就職活動の会社選びなどでも似た傾向が見られる。自分が共感を寄せるインフルエンサーの言葉が影響力をもつ。

SNSネイティブ

幼少期からソーシャルメディア（SNS等）が当たり前に残り、SNSを使いこなして情報収集やコミュニケーションを行う。閲覧履歴を基にしたおすすめ（レコメンド）の手法に慣れているので、自らキーワードを入れて検索する行為はあまり得意ではない。

「どう見られるか」が気になる

SNSで情報発信することに慣れているため、周囲からの評価を気にしがち。「いいね」を多くもらえるような発信をする、アプリを使って写真を加工して投稿するなど、ほかの人から良く見られたい傾向がある。その反動からか「SNS疲れ」といった言葉も。

今の高校生は、情報環境が大きく変化した社会における「Z世代」として
これまでとは異なる価値判断や行動の傾向が注目を集めています。
しかし、目の前にいる生徒一人ひとりには本当に語られるような「Z世代」像に
当てはまるのでしょうか？ 実際に、高校生に聞いてみました。